

西神ニュータウン研究会 会報

第232号 2023年11月

■第232回例会（秋の見学会記録）

- ・日時 2023年10月8日（日） 9:00～12:00
- ・場所 伊川谷方面 ・参加者 34名
- ・テーマ 令和5年秋の見学会
「伊川谷惣社秋祭り」

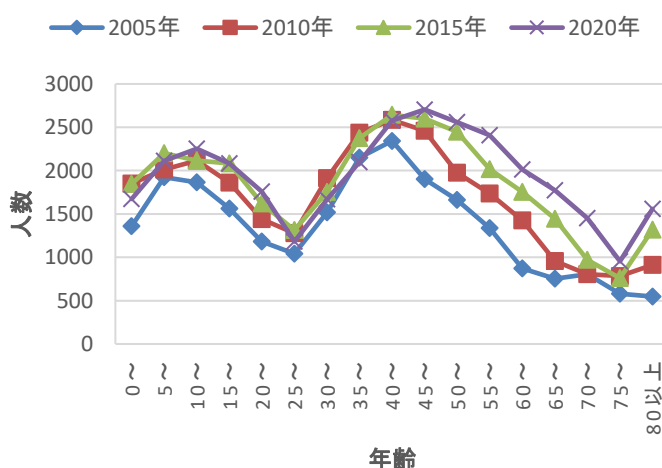


■雲行きの怪しい中、西神南駅前に集合し、34名の参加を得て、西神南ニュータウンを見学した後、バスにて「伊川谷インター前」まで行き、その後、古墳の眠る天王谷公園や興楽寺を見学した後、伊川谷惣社の秋祭りを楽しみました。

◇西神南ニュータウン

- ・平成5年の街びらき後、30年が経過したニュータウンですが、まだまだ子供の多いニュータウンです。
- ・計画人口 35,000 人に対し、今年の7月現在約 31,900 人が居住しています。中学生の数は依然として 1,100 人規模を保っているものの、今年の1月に比べ人口が約 300 人減少するなど、成熟期への兆しが見受けられます。
- ・西神南の特徴は、地区計画によって、街角広場と街角施設が位置付けられていることです。
- ・街角広場は、大きな道路の交差点などに小規模な広場を設け、開放的な景観をつくっています。全体で 36 か所つくられています。
- ・街角施設は、指定された大通りに店舗等を設けることができるというもので、マンションの1階や戸建て住宅に理美容院や医院、飲食店等が作られ、他のニュータウンには見られない街のにぎやかさを演出しています。

西神南ニュータウン人口の推移



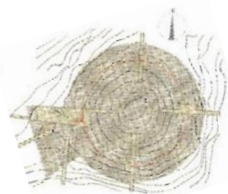
◇天王谷古墳群

- ・「伊川右岸の丘陵部には、八禽鏡や箱式石棺を持つ4世紀前半の天王山4、5号墳、明石川流域で初めての前方後円墳とされる瓢塚古墳が築造されるなど、早い時期から有力な古墳が出現する地域である。5世紀後半以降、水谷大東古墳とその周辺の小古墳、天王山3号墳と1・2号墳などといった帆立貝形古墳とそれに伴う小古墳が築かれる。（水谷遺跡第10次調査報告書より）」

- ・天王谷公園には、5世紀末から6世紀初めにかけて築造された4基の古墳（右図右上）が保存されています。（方墳の4号墳以外）
- ・うち、3号墳は帆立貝式古墳という珍しい形式で、主墳とも言われていて、出土した馬形埴輪は県下でも数少ないもののようです。
- ・近くには5号墳・6号墳（右図左下）がありましたが、5号墳は天王山北公園に移設保存されています。5号墳には3基の木棺と1基の組合式石棺が出土し、石棺は埋蔵文化財センターの玄関ホールに展示されています。



3号墳 ⇒⇒
(帆立貝式古墳)



◇医王山與樂寺

- ・霊亀2年（西暦716年）に藤原不比等（ふひと）の子、藤原宇合（うまかい）によって開創されたと伝わっています。ご本尊は薬師瑠璃光如来で、寺伝によると行基菩薩の御作とされているようです。
- ・本堂は、文化8年（1811年）に建てられたものです。
- ・ご住職に、由緒等の説明をしていただきました。



◇伊川谷惣社(惣社神社)

- ・神功皇后が朝鮮遠征の帰途、この地で一休みしたとき「大国主を此処に祀れ」と命じたのが、この惣社の創始であると伝えられています。4世紀後半頃のこととなります。
- ・現在の本殿は、宝暦11年（1761年）に旧社殿の古材を用いて造営されたとのことでした。
- ・当日は、秋祭りの昼宮で、4基の布団太鼓が奉納されていました。



- ・宮入を待つ間に雨が降り出しましたが、全行程を踏破することができました。